

書写の要素 字形：点画の組み立て方(方向) ②

山梨大学教授 宮澤 正明^{みやざわ まさあき}

漢字の点画の種類は、基本点画の八種類に大別されますが、そのバリエーションは多く、常用漢字では百を超える数に達します。それらが離れ、接し、交わって構築されているのですから、漢字がいかに複雑な文字であるかがわかります。その中には、点画相互の関係によって方向が左右されたり規定されたりするものがあります。これらを「点画相互の方向」としてとらえると、〈平行の原則〉や〈開閉の原則〉などを挙げることができます。今回は、〈平行の原則〉を取り上げることになります。

同じ点画が並んだときは、基本的には平行となります。当たり前のようですが、意識しないとなかなかそろわないものです。また、例外として平行にしないものもあり、これも原則化できるようです。

○横画相互の方向

「一」「王」「長」「里」などのように横画が二本以上並

ぶ場合は、それぞれを平行に書くことを原則とします。漢字は横画が圧倒的に多いだけに、この原則は字形を整えるうえでとても重要です。なお、字形全体や部分の最大幅になる横画(「正」の五画目、「晴」の八画目など)は、形を安定させるためにやや上に反ります。

王 長 正 晴

○縦画相互の方向

「日」「竹」「利」「門」などのように縦画が二本以上並ぶ場合は、原則としてそれぞれが垂直に並ぶように書くこととします。また、「月」「川」「用」「角」などのように左側に左払い、右側に縦画の場合、左払いは垂直部を長く書くことで縦画に対応させます。

日 門 月 用

なお、三方、四方を囲む閉鎖形の「田」「回」「日」「目」「国」など、外形が縦長四角または正方形のグループは、左右の縦画が原則どおり垂直・平行に書かれるのですが、この原則にのっとらない場合があります。それは、「口」「四」「田」「曲」「雨」「西」「皿」など閉鎖形・閉鎖部の外形が横長四角に書かれるグループです。これらの場合は、左右の縦画部は、逆台形を形成する方向にそれぞれ倒れるように書きます。

目 国 田 西 胃

このことは、漢字が縦書きによって書き継がれてきたことと無縁ではなさそうです。つまり、左右の縦画を垂直にした扁平な四角では横への広がりが増強され、縦方向への流れや縦書きの書字リズムに逆行することになります。そこで、重心が高く見える逆台形を採用し、字形にスマートさを与えることで縦方向へのリズムを確保し

たのではないかと思われます。ちなみに、「員」「買」「胃」などは、一つの文字中に二つの原則が含まれているので、教材化すると、両者を理解しやすいでしょう。

○斜画相互の方向

「糸」の一・二画目の左下にのびる斜画は、平行に書かれます。この原則は糸偏の漢字はもとより、「後」「機」「率」「幼」「磁」の「么(いとがしら)」や「郷」「刻」などにも応用できます。「糸」を部分にもつ漢字は、学習漢字中三十字を超えており、習得しておきたい原則です。

糸 組 後 郷

今回は、点画の方向に関する原則をいくつか挙げてみました。書写の要素を理解し、そのうえで原理を発見する活動は、書写力を支え高めるための栄養剤といえます。単元のまとめとして、子どもたちといっしょに、これらの原則をもつ漢字を既習文字の中から探してグループニングしてみませんか。書写の学習は、清書作品を仕上げることだけではないのですから。